

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2872201468		
法人名	社会福祉法人 グランはりま		
事業所名	グループホームはなたば		
所在地	兵庫県加古川市平岡町高畑 1 - 1 (電話)079-451-1530		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成20年1月25日

【情報提供票より】 (19年10月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	38231		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤10人, 非常勤2人, 常勤換算9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1	0 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	42,900 円	
敷金	有( 円) ⑧			
保証金の有無 (入居一時金含む)	⑨( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / ⑧	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (10月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	7	要介護4	3		
要介護5	3	要支援2	0		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河合医院・はりま病院・のむら心療内科・ほじ歯科・小川皮膚科
---------	-------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

加古川市と稲美町の境にあり、国道2号線沿いの利便性のよいところにある。近代的な鉄筋3階建ての介護福祉施設の一角にあり、和風の玄関から暖かさが感じられる。花壇・畑は車椅子で作業が出来るよう工夫がされており、利用者の憩いの場所ともなっている。ユニット間は廊下で仕切られているが、行き来は自由で利用者が思い思いの場所で過ごされている。開設当初より地域との信頼関係もできているが、独居の方へのかかわり等、より地域に根付いたものとなるよう努力されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価後、具体的に行動に移せるよう職員全員のカンファレンスで改善策について話し合った。五感の刺激の為に畑を改造、介護計画の見直しについては定期的に見直すよう改善した。評価結果は家族にも配布し報告している。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	今年度の評価については、利用者のケアは共通理解が必要という施設長の考えから全職員で話し合い、評価している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は、ホームを利用して開催される他の会議や家族の集まる機会を利用して開催。議題も豊富で積極的な意見交換が出来ている。市の職員や包括支援センターの職員の参加は出来ていない。運営推進会議の議事録を市に持参して報告している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	重要事項説明書に苦情相談窓口を記載している。家族の面会も多く、職員の方から声をかけ、意見や要望など気軽に話せるような雰囲気を作るなど心掛けている。面会の少ないご家族へは電話など連絡を取り意見や要望を聴いて対応している。ターミナル時には1対1で話が出来体制も整っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	地域の行事に参加する以外にも、独居の方に利用者がクッキーを配ったりして、ホームの方から自然な形で地域にかかわりを持つようにしている。中学生のトライやるウィークやボランティアの受け入れも行き、交流を深めている。自治会や民生委員の勉強会をホームで開催できるように開放しており、地域とのかかわりを密にするよう心掛けている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、現場のケアの中から、グループホーム独自の理念を作成し各ユニットに掲示している。開設当初から、地域に根づいた環境であり、理念にも盛り込まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初より、折にふれて職員と話し合い、言葉で言えるだけでなく、ケアの場面で理念が浸透するよう心掛けている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り・秋祭りなど地域の行事に参加する以外にも、独居の方に利用者がクッキーを配ったりして、ホームの方から自然な形で地域にかかわりを持つようにしている。職員だけでなく利用者も地域に出て行く機会を持っている。中学生のトライやるウィークや書道・新舞踊・フルート演奏などのボランティアの受け入れも行い、交流を深めている。自治会や民生委員の勉強会をホームで開催できるよう開放しており、地域とのかかわりを密にするよう心掛けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価後、改善策について具体的に行動に移せるよう職員全員のカンファレンスで話し合った。評価結果は家族にも配布し報告している。今年度の評価についても、「利用者のケアは共通理解が必要」という施設長の考えから全職員で評価している。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、ホームを利用して開催される他の会議や家族の集まる機会を利用して計画している。会議の度に参加者は様々であるが、議題も豊富で積極的な意見交換が来ている。行政の方の意見を聞く機会はあるが、市の担当者や包括支援センターの職員の参加は来っていない。</p>		<p>様々な立場からの意見を聞くと共に、改善課題を検討していく上でも、会議に市の担当者や包括支援センター職員の参加も望まれる。また運営推進会議で第三者評価結果を報告し、改善経過のモニター役とされることも期待される。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市とはお互いに情報提供・共有し解決に向けた対応がなされている。運営推進会議の議事録を市に持参している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族には、利用者の日常の様子や健康状態・水分摂取量・金銭管理等を文書にて報告している。毎月「はなたばだより」というホーム便りを作成し、月間行事予定や行事での利用者の様子、職員の異動のお知らせなども載せて発送している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も多く、来訪時にお茶を出し職員の方から声をかけ、意見や要望など気軽に話せる雰囲気を作るように心掛けている。面会の少ないご家族へは電話など連絡を取り意見や要望を聴いて対応している。ターミナル時には1対1で話が出来る体制も整っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないようにしている。異動があった場合には新職員が利用者に理解を得られるまでは引継ぎを丁寧にし、家族には随時ホーム便りで知らせるなど、ダメージが最小限になるよう努力している。また職員が定着しやすいよう、研修会を含めて介護の姿勢や方向性を高め、モチベーションを上げて自己研鑽が出来るよう努力している。		
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は新人研修を始め、研修計画を立案し医師による講義やケース検討会などの研修を行なっている。外部研修は、案内を回覧し、参加の機会を確保すると共に研修費の全額補助もあり積極的に参加できる体制がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の併設施設などの様々な職種の職員との交流が中心となっている。一部のグループホームがされているネットワークには参加していない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居までに本人や家族が生活しておられる場所へ訪問して面談を行い馴染みの関係作りができるよう努力している。また、体験入居はないが、申し込み時にホーム内を見学できる体制がある。利用後は徐々に馴染めるよう配慮している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はホームの役割を理解しており介護する側が一方的なかかわりにならないよう配慮している。一緒に生活する中で、利用者の生きがいなどを一緒に見つけ出し、毎日の喫茶店の開催や知恵の伝授など、職員と利用者が一緒に支えあう関係となれるよう心掛けている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の施設の情報や面談中の会話の中で利用者や家族の思いや意向を聞くようにしている。日常生活の中からその都度要望などを読み取るよう努め、個人票に記録して職員間で共有している。把握しにくい利用者に対しても、表情や動きなどの非言語的な部分でも捉えらるよう努力している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に利用者や家族の意向を聞き、以前利用していた施設の情報を基に計画を立案している。定期的にカンファレンスを開き、利用者一人ひとりにあつた計画になるよう職員全体で意見を出し合っている。家族にも説明し同意を得ている。</p>		<p>利用者の生活歴や家族背景などの情報やアセスメントをまとめて記入できる様式をホーム内で統一し、誰もが見ても分かりやすいものになるよう工夫が望まれる。また、計画に基づいた記録が出来ることも望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3～6ヶ月での見直しを基本として、状態の変化や問題のあるときにカンファレンスを開き職員全員で見直しを行なっている。</p>		<p>介護計画が現在のケアの実施状況や利用者の状態とずれがないか確認するために、状態の変化がない場合でも1ヶ月に1回程度の検討や見直しが望まれる。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々<sup>の</sup>要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を整え、訪問看護ステーションとの契約により24時間体制にて利用者の健康管理を行なっている。かかりつけ医への受診は家族の要望により付き添う等、柔軟な対応が可能である。近隣の独居の方への行事参加を促すなど自宅で暮らす高齢者の認知症予防への支援もしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族や利用者の希望にあわせ馴染みの関係の主治医に受診できるよう配慮している。緊急時には往診も利用出来る体勢が整っている。受診状況はケース記録に残し、関係機関との情報が共有化でき、連携がスムーズになるよう配慮している。受診結果は家族にも報告されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に家族や利用者に対してホームの「看取りについての指針」を十分に説明し、同意を得ている。入居後は利用者の状況や意向の変化を常に確認しながら、医師・訪問看護師・ケアマネージャー・職員を交えて繰り返し話し合う時間を持ち意向を確認するようにしている。緊急時に全ての職員が速やかに対応できるようAEDの使用方法や吸引等の具体的な訓練も行なっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの尊厳や誇り・プライバシーに配慮した声かけや対応を行なっている。勉強会でのケース検討の中で振り返りを行い、個人情報の扱いにも注意を払っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムに配慮しながら利用者の望む過し方を最優先に考え、希望に添った生活が出来るよう柔軟に対応している。行事参加は強制せず、利用者のペースにて参加できるよう職員が細やかに対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房から食材が搬送され下ごしらえや調理は職員と利用者が一緒になって行ない、片付けは利用者同士で協力し合って手際よく出来ている。利用者の好みや力が考慮されるよう厨房会議の際には嗜好調査もされている。食事時間は職員と一緒に会話を楽しみながら楽しく食べられるよう配慮されている。また、行事の際は回転寿司やバイキングにするなどの楽しみもあり変化をもたせるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を午前・午後に設け、体調を考慮し希望の時間に入れるよう出来る限り対応をしている。希望によってはデイサービスのジャグジーなどの特殊浴を利用し支援する事もある。入浴できない場合や汚染された場合などシャワー浴や清拭・足浴などの対応も行っている。同性介助が出来ない場合でもプライバシーには配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を生かした役割が持てるよう配慮している。手芸や花の水遣りや食事の手伝い、選択や喫茶店の仕事など能力に合わせて自然な形で能力が発揮出来るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子でも作業できるよう花壇や畑を工夫しており、水遣りや草取りが日課となっている。受診時も車椅子や徒歩で行くなど積極的に外に出る機会を増やし、四季を肌で感じ、五感の刺激にもなっている。希望を言われなくても、買い物先を選べるなど自己決定が出来るよう工夫されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全確保のために施錠しているが、日中は職員が見守り体制で玄関やベランダの鍵を開放し、自由な暮らしが出来るよう支援している。身体拘束についても研修にて「身体拘束をしない介護の工夫」を話し合う機会を持っている。転落防止にもベッド柵は使用せず、マットを引くなど安全対策を講じている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルが作成してある。定められた年2回の消防訓練は職員・利用者・地域の消防団が参加し行なわれている。法人内に災害時等に備えた食料や飲料水の備蓄があり非常時に活用できる準備がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房会議が中心となって嗜好調査が実施され、調査結果を基に献立が決められている。栄養素も記入された献立表を基に、具体的にカロリーや水分量を観察し記録している。水分補給の大切さを重要視し、見やすいグラフに表したり、食事の形状を食べやすいように刻むなど個別支援が出来る様に工夫している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間を自由に行き来できるように開放されている。ユニットの入り口にもソファが置いてあり、家族や他の利用者との会話を楽しんだり、くつろぎのスペースとなっている。玄関や居間にはさりげなく生花が飾っており、聞こえてくる音は生活感を感じられるものとなっている。オゾン装置を各居室と居間に設置しており、不快な臭いや空気のよどもない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札は職員と利用者が一緒に作成したものがかけられている。使い慣れた家具の持ち込みが少ない家族に対しても再度協力を依頼し、アルバムなどを持参された。持参物以外にも利用者の手作りの作品を飾るなど落ち着いて生活出来る空間作りを心掛けている。		

は、重点項目。